

## 中国視察研修旅行

11月22日～24日 於 中国上海・蘇州

(株)長濱製作所 立入 一晃

11月22日～24日の3日間、中国上海・蘇州の工場視察研修旅行を行いました。中国が現在どのような状況であるのかを、自ら行って、見て、触れることにより、我々の立ち位置を再確認することが重要であると考え、この度の視察旅行を企画致しました。また、今回の視察研修旅行の企画にあたり、生田産機工業(株)生田社長にアドバイスを頂き、計画を進めました。

旅程は初日に日系企業3社、中国企業1社見学しました。中国企業の上海吉基電子有限公司はパソコン関係の量産前試作部品中心の切削、プレス工場で、ファナックのマシニングセンタが沢山並んでおり、ほぼ1台に一人がついて作業されていました。日本では数台の装置を掛け持ちするのに比べ、効率が悪いように感じました。

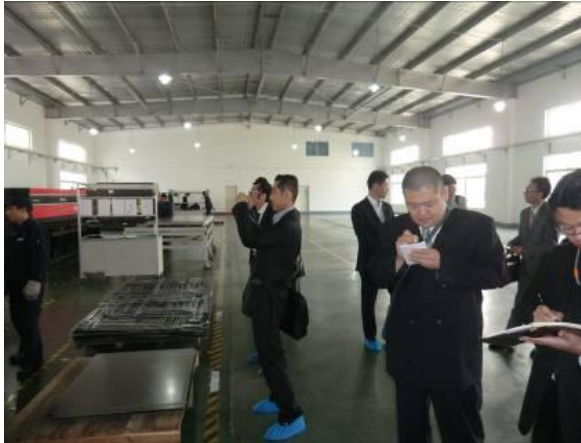
その後、秋田精密自動化設備有限公司、蘇州科尼西精工有限公司を訪問しました。秋田精密自動化設備有限公司は主にFA機器の開発・設計・製作・組立をされており、秋田董事長から色々お話を頂きましたが、部品製作はほとんど協力企業に出しておられ、当初は図面通りの部品が納品されない、納期は平気で遅れる等のお話をお聞きました。蘇州科尼西精工有限公司は精密金具、精密部品の加工等をされており、若松営業部長は、規模的には大きくない工場だが、社員さんが真面目で良い製品を作ってくれと言われておられました。初日の最後は、生田精密機械有限公司を訪問しました。工場内は凄く広く、整理整頓が行き届いた綺麗な工場でした。



2日目は日系企業1社、中国企業 2 社を見学しました。1社目の中国企業の昆山栄科板金科技有限公司はアマダの最新鋭の機械が広い工場に並び、主にタレットパンチプレス、溶接の作業をされておりました。2日目は主に制御関係の配線組立をされておりられる昆山愛光電子有限公司を訪問しました。

2日目最後は忠嗣金属制作有限公司を訪問しました。こちらは機青連幹事(株)大栄製作所 吉岡社長の実弟が総経理としてご活躍されており、主にタレットパンチプレス加工、レーザー加工、製缶一式等の仕事をされており、品質は日本と変わらないようにできるが、離職率が高く、雇用の面で大変苦勞されておりました。

その後の夕食会に京都産業21上海代表処の藤原首席代表にお越しいただき、中国の現状と先行き、ビジネスに関する日中企業間の情報交流、中国各地域との交流促進、各種マッチング事業・展示会の企画等、大変貴重なお話を頂きました。



最終日には、昼食後にいくつかのグループに分かれて意見交換会を行いました。中国へ出発する前に書いて頂いたアンケートを基に、中国に関する考え、日本で生き残るにはどうするかなどの意見について視察前後の比較を行い、テーブルディスカッションをしました。



今回の視察研修旅行を通して感じたことは、中国では貧富の差が大きいということ、技術・品質に関しては、数年前より進んでいます、独自の技術はあまり見られず、細かい部品精度は日本企業より劣ると感じました。

しかし、新規事業立ち上げや設備投資の決断力の早さは日本企業も見習わなければならないと思いました。自ら行って、見て、触れて、これから何をすべきか考えさせられる大変貴重な経験をしました。

最後になりましたが、当初の企画運営よりご尽力頂きました皆様、ご参加頂きました会員様並びに社員の皆様に心より御礼申し上げます。

